

## ことばの教室の実践を基にした〈対話〉を巡る考察

## ー対話と、共感性（関係性）、自己性、レジリエンスー

牧野 泰美

## 1. 今回の講習会のテーマ「対話」をめぐって

- ・どんな臨床も「対話」は柱であるはず・・・
- ・「対話」を通して、自己を発見できる
- ・「対話」を通して、課題が引き出される、整理される
- ・「対話」の材料、「対話」の形は、様々にある
- ・「自・他」と「自・我」、「内なる他者」

## 2. 吃音のある子どもとの関わりをめぐって

- ・本人、保護者の思い、考え、その背景、出どころ
- ・ウォンツ？ ニーズ？
- ・じっくり聞くこと、じっくり話し合うこと
- ・吃音をめぐる現状、正しい情報を伝えること
- ・一緒に考えること
- ・一緒に考える、学ぶパートナー
- ・考える視点の提供
- ・向き合い方を見つけるのは本人

## 3. 吃音臨床と関係論

○関係論的な立場から、吃音のある子ども（人）との臨床を考えてみると・・・

「自らも生き生きと生きていたいと願っている人としての臨床家が、吃音があることで悩む子ども（人）を取り巻いている人間関係、事物・事象との関係に参加し、その中に生きる人間間の共感性と、各々の自己性を育てるために関与する」こと

- ・見る、見られる
- ・見る基準
- ・関係の中で生き、関係の中で自己性を育てる
- ・周囲の人も関係の中で生きる存在
- ・見方を変換してみる
- ・共感性（関係性）と自己性

## 4. 共感性・関係性

- ・「間」に生じる問題
- ・相互の見合い方、向き合い方
- ・自らの見る視点
- ・関係が難しい、苦しい、と感じる
  - 共有が成立しない状態
  - 困った点での共有が成立し、他の面での共有が成立しない状態
  - 共有が一点に集中し、拡がらない状態
- ・関係への関与
 

自己の再観察・再解釈	人の再観察・再解釈
子どもの再観察・再解釈	事物・事象の再観察・再解釈

人（子ども）と人（子ども）の関係の再観察・再解釈  
自己と人（子ども）の関係の再観察・再解釈  
自己と事物・事象の関係の再観察・再解釈  
自己と吃音の関係の再観察・再解釈  
人（子ども）と事物・事象との関係の再観察・再解釈  
人（子ども）と吃音との関係の再観察・再解釈  
状況の再観察・再解釈

## 5. 自己性

- ・ 周囲の人・事物・事象との関係の沈殿物
- ・ 役立つ実感
- ・ 今ある力、手持ちの力
- ・ 肯定的に受け止められる実感

吃音のある子ども（人）が手持ちの力をつかい、今の暮らしの中で自分らしさを肯定的に受け止められる実感を味わえる時間を蓄積する。子どもと教師等とのこのような関わりの積み重ねが、子どもが周囲の中で（周囲や自分と折り合いながら）生きていく力になる。

- ・ 喜ぶ／喜ばれる
- ・ 自己決定／主体性
- ・ 自己認識、自己理解
- ・ 自分研究、生き方研究

## 6. 吃音のある子ども（人）本人のレジリエンス、関わり手のレジリエンス

- ・ 自己信頼、他者信頼、自分らしさの受け止め（本人）
- ・ 本人と生きる（過ごす）ことを喜び、自分の人生を生きることを楽しむ（親、等）
- ・ 関わり手（親・教師・言語聴覚士等）もまた、子ども（人）にとっての人
- ・ 関わり手の人・事物・事象の見方、捉え方、向き合い方が問われる
- ・ 関わり手自身の周囲との共感性・関係性、自己性、レジリエンス
- ・ 関わり手の吃音観、価値観、人生観

## 7. 「私」の再構築

- ・ 「私」の成り立ちを振り返ってみる
- ・ 「私」はどうやって意味づけされてきたのか
- ・ 「私」の声、ことばは、どうやって意味づけされてきたのか
- ・ 育ちの中で意味づけ、形成されてきた「私」
- ・ 共感性・関係性と自己性の再構築
- ・ がんばりどころと、そうでないところ
- ・ 「ねばならない」ことはない／「ねばならない」からの解放
- ・ 発想の転換／そんな手もあったのか
- ・ いわゆる「逃げる」ことの再考／どこでも人生の舞台
- ・ 「今」も人生の本番

## 8. ことばの教室における指導・支援の現状

- ・自由な雰囲気ですらに話す（楽に話せた、わかってもらえた満足感）
- ・話す自信、経験
- ・症状の軽減、流暢性の確保、吃音のコントロール
- ・楽にどもる
- ・脱出法（困ったときに抜け出す方法）
- ・苦手な語や、場面に対する緊張の解消
- ・症状のみでなく、行動・様子を評価
- ・話しやすいように話す（話す、読むことを楽しむ）
- ・より伝わる表現、生きた、おもしろい表現・コミュニケーションの工夫
- ・吃音に関する正しい情報提供、悪化条件の除去
- ・吃音・自己に対する意識を支える
- ・吃音・自己に関する学習
- ・吃音のある自分が、どう生きるかを考える
- ・自分の吃音について話す、語る

## 9. 吃音を語る

- ・暮らしを語る
- ・日常場面の対策（音読の時、日直の時、発表の時・・・）
- ・こんな時どうする？
- ・第三者の悩みごと、困りごと相談として
- ・語るための教材（ゲーム、絵本、物語、クイズ、言語関係図、吃音冰山、どもりカルタ、ジョハリの窓・・・）

## 10. ことばの教室の実践から

- ・ペア指導、グループ指導
- ・自分さがし
- ・マイすごろく

## 11. おわりに

- ・自分を生きる
- ・生き方研究所
- ・ことばは ころを 超えない
- ・そばにいてくれるだけでいい

### <連絡先>

239-8585 神奈川県横須賀市野比 5-1-1 国立特別支援教育総合研究所 牧野泰美  
Tel. 046-839-6839（直通） E-mail: makino@nise.go.jp